

見直しではなく廃止へ 裁判員制度はいらない！大集会

裁判員制度が始まる3月21日、東京日比谷公会堂で「裁判員制度廃止」



コスの達に接する場は、院主の講義は、寸劇の結果だけに開けられました。



漫畫監督

要約したDVD「イン・ルバム」上映後、司会の沢ロコさん（女優）の宣言で始まり、呼びかの今井亮一さんの挨拶にて、宮本弘典関東法学刑法学教授による切の良い裁判員制度批判演（別掲）が行われ会盛り上りました。いてお待ちかねの3D「インコライダー」、怪イコウサイの野望をう

け！」かと演されま
裁判員いらないインコ
運動が裁判員制度導入
人である最高裁・法
日弁連執行部とそれ
るマスクミを相手に
や市民と一緒に闘つ
“する”というストー
民衆の側が勝ちそ
たらマスクミが民衆
つてきたところがな
皮肉？。プロの劇団
語家の林家時蔵さん
つての熱演に会場か
い拍手が送られまし
いて、蛭子能収さん
（映）、崔洋一さん（映
）、山本太郎さん（俳
3氏からのビデオレ
上映され、それぞれ
裁判員制度に反対か
運動体が紹介され、
語られました。



法学院大学教授
刑法史 張典志

なった8人が登壇。民からも相模原の川千葉支部の並木さ一緒に並んで制度の廢えました。全国の運裁判員候補をバックで活動呼びかけ人の高山護士が立ち、「裁判は破綻しています。」と闘う。はなんてーへおは学びかの声

司法制度改革をします。社会が福祉国家の統一強化があつたまつたのがおなじみレチャード・中曾義路線です。は人をダメにできるとして富が蓄積のおこぼれが増えると、です。

裁判員制度の導入だ。裁判員制度は、國家の治安管理に国民を動員して立たせ、時下の社会市民の他に側に立たせ、三極構造をつくるなど、新自由主義の背景には資本主義機械があり、規制緩和などを実現する財界からようとする。

刑事裁判では前近代された「魔女裁判」や被告人の利益に」ときた。しかし、これからくつがえしたことからくつがえしたことからくつがえしたことからくつがえしたことからくつがえこと

ました。根強い反対をもつて行動を！」と呼んでしまった。粘り強く廃止へましよう。

革命の議論が登場から戦時国家へ治戦略の転換・
た。これがはじ
1980年代、
一ガン、サッ
曾根の新自由主
義は「手厚い保護
にする」、「民に
は民に」、そう
積されれば、こ
と食べられる人
いう粗雑な議論
度は危機管理国
理装置だ。ここ
貢して統治する
ようとする。戦
防衛論で国家、
「敵」を含めた
つくりあげ「被
った人を法的の
徳的に市民社会
る。「敵を排除

員制度は、原発や同じくいかなる妥協には国家にそれ相応の必要だ。その力を市民家にゆだねるべきである国家を正当化させていたのだ。ポスト福祉国家、ト社会的法治国家は、根さんがいみじくものように「不沈空母」、管理国家なのです。

之に戦時下で行われた同様に、自白調書の証拠の説明を不要とするなどして、刑事裁判を迅速・重罰化しよう。しかし、公判前整理により起訴から初回は拘束が長くなりまでは長くなり、被告ますます国家の支配を支配の道具にするも止しかない。